自力建設プロジェクト　広島の終身住居

プロジェクト構成員
田辺弘幸、門永琢、柏原誉、木村秀男、宮原崇

指導教員
本多　友常（システム工学部）

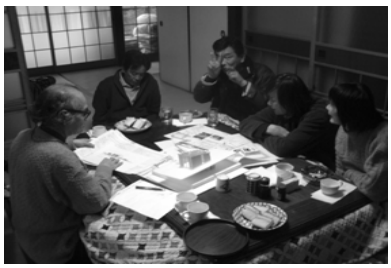
【演習の背景・目的】

このプロジェクトは、広島県広島市佐伯区湯来町に定年退職をした夫婦の終身住居を建てるプロジェクトです。この夫婦は本多教授の友人なのですが、定年後広島の実家の近くに土地を買い、終の住まいをつくりたいという夢を持っています。単に建築家やハウスメーカーに頼んで家を作るのではなく、自分自身で考え、作ることを望んでいます。誰かに与えられた住まいに住むのではなく、自分が作ったと思える住まいに住みたいということでした。その背後には、建築家やハウスメーカーに対する不信感があるようです。今後、このような施主は増えていくのではないかと思います。施主と共に考えつくることが建築家にも求められてくるでしょう。

本プロジェクトでは、施主が建築の計画・建設に主体的に関ることが重要です。そこで、自力建設という手法を用いて、施主と一緒に考え、一緒につくることを目指しています。その際、学生が先生の監修のもと、施主、業者との打ち合わせ、役所への申請などを行います。そのような設計、建設の過程を体験することにより、通常の学校の講義では学べないことをいろいろ経験することが目的です。

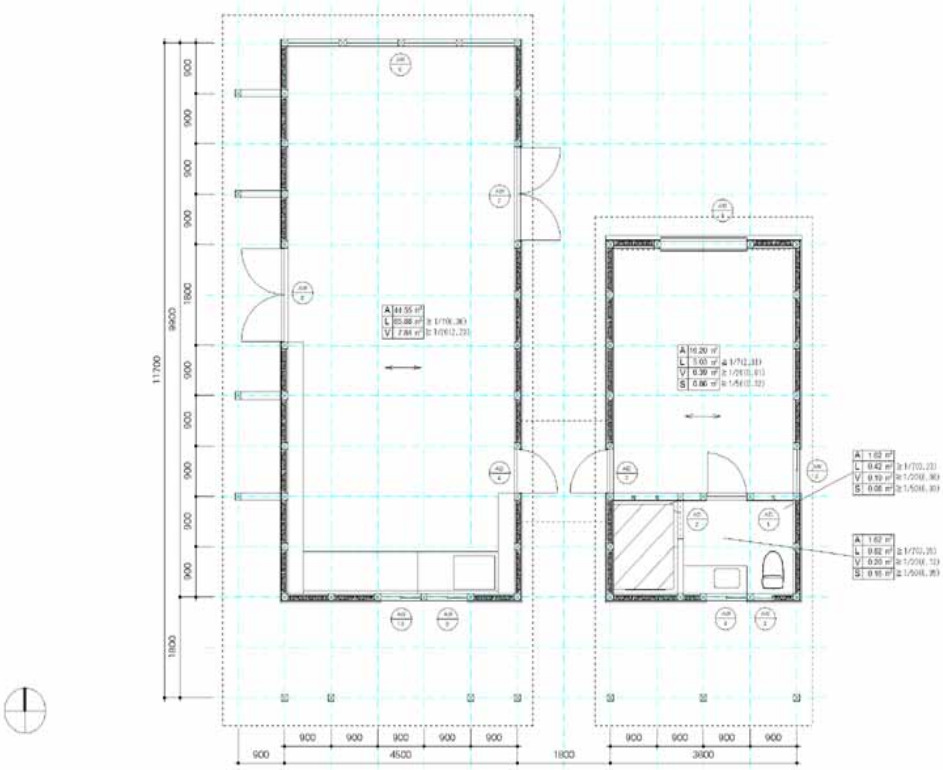
【演習の実施方法】

まず、施主と打ち合わせを行い、計画を作成します。そして、その計画案をもとに再び打ち合わせを行い、細かく検討していきます。その際、設計者の意見を押し通すのではなく、施主の思いを汲み取りながら、学生からもさまざまな提案をして、計画を進めました。打ち合わせは、模型やスケッチを囲み意見を出し合いました。また、いくつもスタディ模型をつくり検討しました。

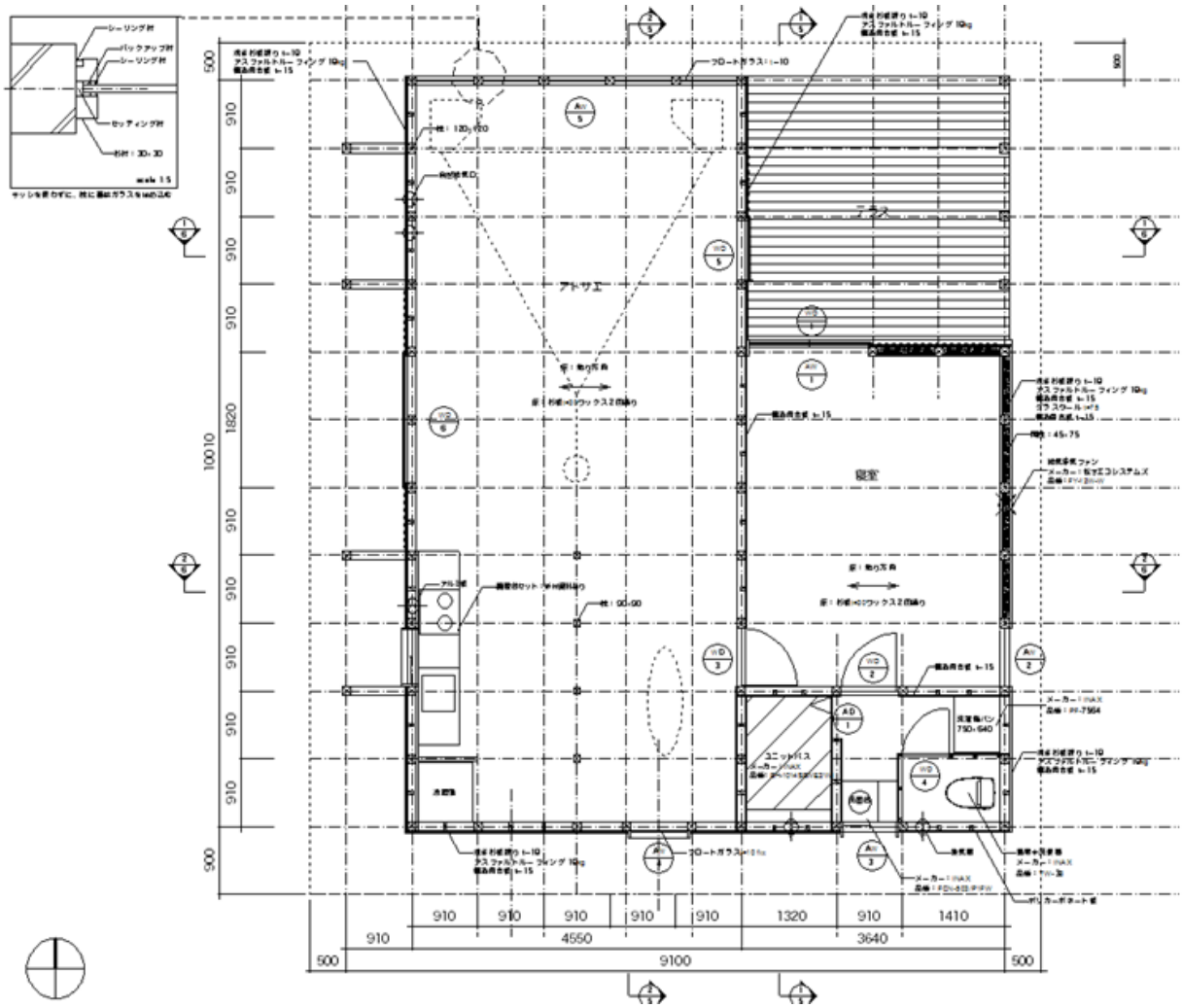


そのような作業を繰り返すことで、計画を作成しました。そして、役所に確認申請を行いました。その際、壁量計算やＡＬＶＳの計算なども学生で行ないました。そして、施主と一緒に役所に行き、書類を提出しました。しかし、敷地が道路に接していないということで、他の申請書を作る必要がありました。それも学生で行ないました。何度かの訂正を経て、なんとか建築確認が下りました。この一連の申請作業で、実際に住宅を建てるときに法規や構造など、通常学校ではなかなか理解できないものを、実感を持って勉強することができました。

そして、いよいよ施工業者の選定を行なうこととなり、施主の人脈を使い探すこととしました。それで施主の知り合いが施工を引き受けてくれることとなり、予算の調整などを行いました。その中で、予算が足りないため、２棟に分かれていた案から、１棟に繋げる案に急遽変更することになりました。そのほうが、基礎や壁の量が少なくてよいということと、構造や断熱など性能面でも優れているという理由から、変更することとなりました。



そして、一棟案で予算の調整をしていましたが、折り合わず大工が変わってしまうということになりました。それで、大幅に工事が遅れることとなりました。その後、施主の知り合いの方に頼んで、引き受けていただくことになりました。予算の調整など、数回打ち合わせを行い、計画を決定しました。そして、現在基礎の工事が進んでいます。



【演習の成果】

この活動の中で、私たちは学校の中では学べないさまざまなことを体験できました。どのように話し合いを進めたらいいのか、どのように材料を発注したらよいのか、どのように組み立てるのかなど、実際のプロジェクトで重要になってくる部分を学べました。これは、実施計画に携わることにより体験できたことだと思います。

また、この演習により、一軒の住宅の設計ができ、５月ごろに竣工予定です。この住宅と、この住宅の設計、施工の体験が、本演習の成果です。

【今後の検討課題】

私たちは、本演習でさまざまなことを体験しましたが、運営面であまり上手くいかない部分がありました。この計画では、施主が主体的に関ることが重要でしたので、施主と大工が直接交渉することもありました。しかし、その際、大工は施主のさまざまな要望を、設計者を介さず、直接聞くことが多くあり、混乱を招いてしまいました。もし、次回このような計画を行なうのなら、施主と大工が直接交渉することは避けるか、もしくはもう少しコントロールする必要があるものと思います。

また、工事が遅れたためまだ作業が続きます。今後は具体的に自力で作る部分の詳細を詰め、実際に建設作業に携わろうと思っています。

【感想】

今回の演習で、通常の授業では学べない実践的なことを勉強することができました。また、ただ実務をこなすだけでなく、自力建設で建設するという実験的な建築のつくり方を実践することができました。

自力建設は身体的なスケールと技術により、住まい手の生の思いが具現化されます。それぞれの部分の作業の履歴が積み重ねられ、全体が構成されます。現在の建築は削ぎ落とすことにより圧倒的に抽象的で美しい空間を実現するものが主流ですが、自力建設では加算されるものの美しさが生まれます。一つの価値によるデザインではなく、いくつもの見方ができます。表層的なデザインの差異を競うのではなく、本質的な部分を考察することができます。他の手法では得られない造形が得られます。近代の建築手法とは異なる建築のつくり方です。

そして、自力建設はやはり単純に楽しいです。このような体験は、今後建築を考えていく上で、大変貴重なことだと思います。

【その他】

現在工事が始まっています。工事が竣工したら連絡いたします。